

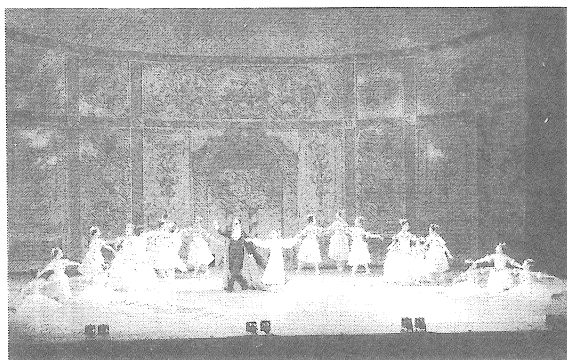
くるみ割り人形

■ 12月20日(土) 16:00～

■ 藤沢市民会館大ホール

■ 出演 乃羽バレエ団／湘南エールアンサンブル
湘南日独協会合唱団「アムゼル」

皆様、どうぞご期待下さい！！



華麗なバレエ「くるみ割り人形」の舞台

湘南日独協会 第27回例会報告

5月24日(土) 例会にて横浜国大-大学院の吉森教授による講演会が開催された。演題は「ドイツに於けるプロテスタンティズムとその経営と経済活動」についてであった。

フランスのカトリシズムと反資本主義

ルターの社会主義

…そしてドイツ・フランスのプロテスタンティズムが経営に及ぼす今日の姿…等々マックスウェーバーの論議を交えて宗教がいかに経営のミッション確立に関わっているか大変興味ある話であった。

活発な質疑もあり、先生曰く「今日の参加者はレベルが高い」の評。さて1554年、1555年、1556年は歴史的にどんな年だったのでしょうか。 三谷善朗 記

湘南日独協会 2003 年度活動予定

2003年は湘南日独協会-創立5周年を迎えます。

■ 8月23日(土) 会員懇話会 18:00～

会場 ホテル法華クラブ藤沢2Fローズルーム

■ 9月27日(土) 第29回例会

演題 講演会「くるみを割る人形のメルヘン」
—バレエ『くるみ割り人形』にちなむ
ドイツの文学と民族の物語—

講師 宮下啓三氏(慶応義塾大学名誉教授)

会場 ホテル法華クラブ藤沢2Fロータスホール

■ 10月25日(土) 会員懇話会 18:00～

会場 ホテル法華クラブ藤沢2Fローズルーム

■ 12月20日(土) 湘南日独協会創立5周年記念
《バレエ特別公演》 於: 藤沢市民会館大ホール

くるみ割り人形

出演 乃羽バレエ団／湘南エールアンサンブル
湘南日独協会混声合唱団「アムゼル」

……………2004年……………

■ 1月24日(土) 第30回例会

会場 ホテル法華クラブ藤沢2Fロータスホール

■ 2月28日(土) 会員懇話会 18:00～

会場 ホテル法華クラブ藤沢2Fローズルーム

■ 3月27日(土) 第31回例会

会場 ホテル法華クラブ藤沢2Fロータスホール

湘南日独協会会報 (Der Wind)

VOL 5. NO. 4. 通巻28. 発行 2003. 8. 2.

湘南日独協会

Japanisch-Deutsche Gesellschaft in Shonan

事務局: 〒251-0055 藤沢市南藤沢8-9 中丸ビル2F

TEL0466-26-3028 / FAX0466-27-5091

湘南日独協会 会報

Der Wind

(風)

湘南日独協会 第28回例会

■ 8月2日(土) 18:00～

湘南の夏を彩るビアイベント

ドイツフェア



昨年のドイツフェアより

会場 藤沢市民会館第1展示集会ホール

出演 乃羽バレエ団

中島良能(企画・指揮・編曲)

梶井智子(合唱指揮・ソプラノ)

楽団「シュバルベ」

石塚千恵(バイオリン)

磯部朱美子(チェロ)

田代純子(ピアノ)

合唱団「アムゼル」

成田 啓(ピアノ)

ワイマール独日協会 一行を迎えて

会員 西沢英男 記

5月27日、ワイマール独日協会鎌田副会長ご夫妻、ローマン副会長の3氏をお迎えし、湘南日独協会主催の歓迎会が出席者多数のもと盛大に行われた。

これに先立ち、3氏は岩崎会長、川本理事とともに鎌倉市長石渡徳一氏を表敬訪問し、ワイマール市長Dr. V. ゲルマー氏の親書を手渡して、両市の親善交流について話し合った。更に、文化財保護やごみ処理などについて、今秋来日予定のDr. V. ゲルマー市長と意見交換するよう、石渡市長に提案した。

さて、3名のお客様をお迎えした歓迎会は恒例により会長挨拶、乾杯にはじまって和気藹々のうちに行われたが、当夜の演し物がそれぞれに趣きがあり、錦上添花を添えた。

まず、本席がわが協会自前の合唱団にとって念願叶ったお披露目の舞台となったことである。この日に備えてのソプラノ歌手梶智子さんによる猛犸古の甲斐あって、水谷さんが育てた若鳥「アムゼル」は元気よく巣立ち、羽ばたいた。曲目はウェルナーの『野ばら』と滝廉太郎の『花』（2番はドイツ語で）。団員一同、日頃の思いを精一杯歌に乗せ、素晴らしいハーモニー、「Phil」の字を頭につければ、まさに「音楽を愛する」人々の団体が出来上がったというわけだ。若鳥「アムゼル」の更なる飛躍が期待される夏のドイツフェアが待ち遠しい。

次に、岩崎会長、鎌田さん、ローマンさんによるシュヴァーベン民謡『ムシデン』の合唱。これは滅多に聴けない、まことに楽しくて且つ珍しいトリオであった。メロディーを誌上に表現できなくて残念だが、ドイツに関心のある人なら誰でも聴き慣れた歌である。



この曲を懐かしみ、楽しげに一緒に口ずさむ声が会場のあちこちから聞こえてきた。

そして極め付きは、まさに真打登場、梶井さんの歌唱であった。

シューマン『ミルテの花』より『くるみの木』、メンデルスゾーン『6つの歌』より『歌の翼に』である。梶井さんの実力の程は、実は一昨年5月の例会でご夫君と共演されたときに先刻承知ではあったが、音楽家のリートに託した内なる心を見事に歌い上げた。加えて、聴く者の耳に飛び込む素晴らしいソプラノの美声、流石メクレンブルク劇場の歌姫、ダテには歌っていなかったなと思うことしきりであった。ここで忘れてはならないのが、中島夫人と成田啓さんのピアノ伴奏である。伴奏の難しさは弾いている当のご本人が一番よくご存知だと思うが、巣立ったばかりの「アムゼル」に合わせ、梶井さんとの呼吸もびたりと合い、そして最も難しかったであろう珍なるトリオの民謡にもさりげなく合わせてくれていたのが印象に残った。

この間、宮下画伯は例によっていとも簡単に似顔絵をせっせとものしていたが、これにはいつものことな

がら感心してしまう。色鉛筆や絵の具の代りに身近にあるコーヒーやらビールやらで色付けすると、名画？が出来上がる。モデルになったご本人にはとてもいい記念になること請け合いだ。

最後に、全員で日本語とドイツ語による『サクラ・サクラ』を大合唱。あれやこれやで時の経つのも忘れ、お開きになったのは予定の時間をはるかにオーバーして、午後9時を過ぎていた。

鎌田さんご夫妻、ローマンさんが、長旅とハードスケジュールにも拘らず、最後までお元気な様子で楽しんでおられたのは何よりであった。そして、終始遠来の一行のお世話をして下さった川本さんご夫妻のお骨折りを多とし、更には、恒例となっているアルコール類自弁が、レストラン側の大サービス（これは所用のため本席を欠席された吉田事務局長のご尽力の賜である）で飲み放題になったことも会の盛り上りに一役買っていて、誠に好評であったことを付け加えておこう。

何はともあれ、ワイマールと鎌倉両市のますますの友好親善が醸成されんことを祈念しつつ欄筆。